

2月2日 / 15日

## 迎接祭

## 晩課

首唱聖詠、大連禱、カフィズマ（悪人の謀）を歌う。小連禱に続いて

# 祭-1

▽祭日経 P851

「主よ、爾によぶ」に八句を立てて讃頌を歌ふ、第1調。（總主教ゲルマンの作）。

主や 汝によぶすみやかに我れにいたりたまえ 主や  
われに聞きたま え 主や汝に呼ぶすみやかに我れに  
いたりたまえ 汝に呼ぶときわが祈りの声をいれたま え  
主やわれに聞きたま え ねがわくはわがいのりは  
香炉かろうのかおりのごとく 汝が"かんは"せのまえにのほり  
わが手をあぐるはくれの祭のごとくいれられん主や  
われにききたま え

(句) 主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。

(句) 願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。

(句) 主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん為なり。

シメオンよ、言ふべし、爾誰をか手に抱きて殿の中に悦べる、誰に呼びて曰ふ、我今釋かれたり、我が救主を見たればなりと。此れ童貞女より生れし者、此れ神よりする神言、我等の為に身を受けて人を救ひし者なり。我等彼に伏拝せん。(三次)

(句) 我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。

(句) 主を望み、我が靈主を望み、彼の言を待む。

(句) 願はくはイスライリは主を待まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイスライリを其の悉くの不法より贖はん。

シメオンよ、モイセイがシナイに於て昏黒の下に立法者として見し者を、嬰兒と為りて、律法に順ふ者として受けよ。此れ律法を以て語りし者、此れ預言者に藉りて言ひし者、我等の為に身を受けて人を救ひし者なり。我等彼に伏拝せん。(三次)

(句) 萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

(句) 蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。

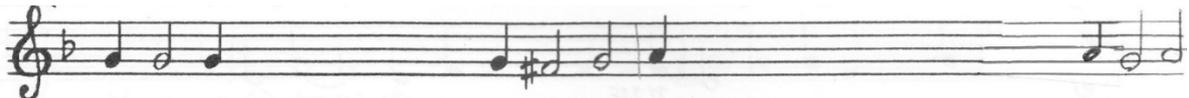
来りて、我等も神聖なる歌を以てハリストスを迎へ、シメオンの視たる救を備へし者を接けん。此れダワイドの預言せし者、此れ預言者に藉りて言ひし者、我等の為に身を受け、律法を以て語りし者なり。我等彼に伏拝せん。(二次)

**光榮、今も、**

今日天の門は啓かるべし、蓋始なき父の言は其神の性を離れずして、時の始を受け、四十日の嬰兒として甘じて童貞女母によりて律法の殿に攜へらる。翁は彼を手<sup>ヒラ</sup>に接けて呼ぶ、主宰よ、僕を釋して逝かしめ給へ、蓋我が目は爾の救を見たり。人類を救はん為に世に來りし主よ、光榮は爾に歸す。



光榮は父と子と聖神に歸す今もいつも世世にアミン



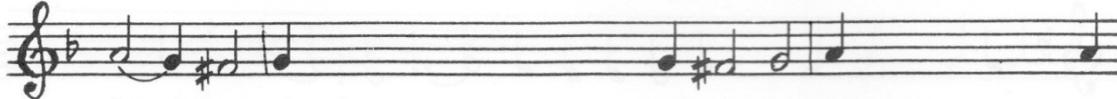
いま天の門は啓かるべしけだし始めなき父のことばは



その神の性をはなれずして時のはじめを



受け四十日のみどり子としてあま<sup>ウ</sup>んじて童貞女母に



よりて律法の殿<sup>リツポウデン</sup>にたづさえらるおきな<sup>ヒラ</sup>は彼を手

にうけて呼ぶ主さいやぼくを救<sup>ユル</sup>してゆかしめた  
 まえけだし我が目は汝の救<sup>スグ</sup>いを見たりじんるいを  
 救<sup>レム</sup>わん<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>に未<sup>レ</sup>たりし主や光えいはなんじにきす

→通常部分 (P7/8「聖にして福たる」へ戻る

(ポロキメンの後)

## 祭-2

## パレミヤ (旧約聖書の読み) ▽祭日経 P776

エジプトを出づる記の讀。(十二、十三章)。

主はイズライリの諸子をエジプトの地より引き出しし日に、モイセイに謂いて曰えり。凡そイズライリの諸子の中の始めて生まれたる首生子を聖と為して我に属せしめよ。モイセイ往きて、衆民を聚めて曰えり、爾等エジプトの地より奴隷の家より出でし此の日を記憶せよ、蓋主は強き手を以て爾等を彼處より引き出せり。爾等彼の法を守れ。主神が爾の列祖に誓いし如く、爾をハナアン<sup>ハナアン</sup>の地に攜え入れん時、爾凡そ始めて生まれたる男子を別ちて主に属せしめよ。後に爾の子爾に問いて、此れ何ぞと曰わん時、爾彼に謂うべし、主は強き手を以て我等をエジプトの地より、奴隷の家より引き出せり、蓋ファラオンが剛愎にして我等を出さざりし時、主はエジプトの地に於て凡そ首生子たる者を、人の首生子より畜の首生子に至るまで戮せり、是の故に我は凡そ始めて生まれし牡を祭として献げ、凡そ我が諸子の首生子を贖う、此れ爾の目の前に動かざる號と為るべし。蓋主神全能者は是くの如く言へり、爾の諸子の首生子を我に與へよ。凡そ婦男子を生まば、第八日に至りて其陽の皮を割るべし、而して三十三日間、修潔の日の満つるに至るまで、神の聖所に、司祭の前に入るべからず。其後主に燔祭の為に當歳の無<sup>?</sup>の羔を取り、又雛鴿、或は<sup>?</sup>鳩を取りて、之を證詞の幕の門に攜へて司祭に至るべし、或は之に代へて雛鴿二羽、又は<sup>?</sup>鳩二羽を主の前に攜ふべし、司祭彼の為に祈祷を獻ぜん。蓋彼等は凡のイズライリの諸子より我に與へられたり、我彼等を取れり、我エジプトの地に於て悉くの首生子を、人より畜に至るまで斃しし時、彼等をエジプトの首生子に代へて聖と為して我に属せしめたり、至上なる神、イズライリの聖なる者は斯くの如く言へり。

イサイヤの預言書の讀。(六章)

ラヂヤ王の死せし年、我主の高く且つ挙がりたる寶座に坐するを見たり、其の衣の裾殿に満ちたり。セラフィムは彼を環りて立てり、各々六つの翼あり、二つを以て其の面を蔽い、二つを以て其の足を蔽い、二つを以て飛べり。相呼びて曰えり、聖なる哉、聖なる哉、聖なる哉、主サワオフ、其の光榮は全地に

満つ、門の上は呼ぶ者の聲に因りて動き、堂は烟に満ちたり。我曰えり、禍なる哉我や、我亡びん、蓋我は唇穢れたる人にして、唇穢れたる民の中に居りて、我が目は王たる主サワオフを見たり。時にセラフィムの一人我に飛び来たり、其の手に鉗を以て祭壇より取りたる炭を持ちて、我が口に触れて曰えり、視よ、此れ爾の唇に触れたれば、爾の不法は除かれ、爾の罪は潔められたりと。我主の聲を聴けり、曰く、我誰をか遣わさん、誰か我等の為に往かん。我曰えり、視よ、我有り、我を遣わせ。彼曰えり、往きて此の民に謂え、爾等耳にて聴けども悟らず、目にて視れども見ざらん、蓋此の民の心は頑なになれり、其の耳は聴くに慵く、其の目を閉じたり、恐らくは目にて見、耳にて聞き、心に悟り、轉じて我が彼等を醫さんと。我曰えり、主よ、此くの如くにして何れの時にまで至らんか。曰えり。諸邑は荒れて之に居る者なく、家屋も亦人の居るなく、斯の地皆虚しくなる時にまで至らん。其後神は人々を継続せしめて。地に遺りたる者は増さん。

イサイヤの預言書の讀。(十九章)

視よ、主は軽き雲に乗りてエジプトに来たらん、エジプト人の手にて造られたる者は其の面前に震い、彼等の心は其の衷に消え、彼等の神は其の中に空しくならん。主は彼等の謀略を滅ぼし、エジプトを苛酷なる君主の手に付さん、主サワオフ、聖なる主宰之を言う。エジプト人は海の傍らに在る水を飲まん、川は竭きて涸れん。主是くの如く言ふ、爾の智者は今安にか在る、彼等は主サワオフのエジプトの為に定めし事を爾に告げて云うべし。當日エジプト人は主サワオフの彼等に置かんとする手に因りて恐れ慄かん。當日エジプトの地に主を祭る祭壇あり、其の境に主に獻る柱あらん。此れエジプトの地に於て世々に主サワオフの徴と為らん、蓋彼等は主に呼ばん、主は彼等を救う人を彼等に遣わさん。主はエジプト人に己を知らしめん、當日エジプト人は主を識り、祭と禮物とを捧げ、祈祷を獻じて、己の誓いを主に償わん。

→通常部分 P10 重連禱へ戻る

(増連禱が終わったら)

## 祭-3

## リティヤのスティヒラ

▽祭日経 P

(アナトリーの作)。

日の老いたる者、昔シナイに於てモイセイに律法を賜ひし主は今日嬰兒として覩られ、律法を建てし者にして、律法を行ひて殿に進められ、翁に授けらる。義なるシメオンは之を接けて、許約の成れるを見て、喜びてべり、我が目は古世より隠されて、此の末の日に現れし秘密を見たり、此れ不信なる異邦民の黯を散ずる光、及び新に選ばれたるイスラエリ民の光榮なり。故に世界に大なる恩を賜ふ主よ、爾の僕を此の肉體の繋より釋きて、老いざる奇妙なる終なき生命に入らしめ給へ。



(以下略)

→通常部分へ戻る。 P11 リティヤへ

(リティヤが終わったら)

# 祭-4

## 挿句のステヒラ

第7調。▽祭日経 P

第7調 (修士コスマの作)。

シオンよ、爾の宮を飾りて、ハリストス王を掛けよ、天の門たるマリヤを迎へよ、蓋彼はヘルウィムの寶座と現れたり、彼は光榮の王を載す。童貞女は光る雲として、其手に黎明の前より在る子を抱く。シメオンは彼を己の手に接けて、人々に其生死の主宰及び世界の救主たるを傳へたり。

句、主宰よ、今爾の言に循ひて、爾の僕を釋し、安然として逝かしむ。

世々の前に父より輝き、季の時に童貞女の胎より出で、シナイ山に於て律法を立て、律法の命に順へる主ハリストスを、婚姻を識らざる母は殿に攜へ、見んことを約せられし者として、司祭たる義なる翁に進めたり。シメオンは彼を己の手に接けて、喜びて呼べり、此は父と同永在なる神、我等の靈の贖罪者なり。

句、是れ異邦人を照す光、及び爾の民イズライリの榮なり。

婚姻を識らざる生神女マリヤは、ヘルウィムの輜に乗せられ、セラフィムの歌に歌はるる主、律法の例を行ふ立法者を、彼より身を取りし者として、其手に載せて、翁なる司祭の手に付せり。生命を抱ける者は生命を釋かんことを求めて云へり、主宰よ、今我を釋して、我が變易なき赤子、永久の神、及び世界の救主を見たることをアダムに知らせしめよ。

光榮、今も、第八調。(クリトのアンドレイの作)。

ヘルウィムに昇はれ、セラフィムに歌はるる者は、今日律法に循ひて神の聖所に攜へられ、寶座に於けるが如く翁の手に坐し、神に適ふが如くイオシフより禮物として雙の班鳩を受け給ふ、是れ無?なる教会及び異邦民の中より新に選ばれたる民を示す、又二の雛鴿を受く、是れ其舊約新約の首たるを示す。シメオンは己に約せられしことの成りたるを見て、生神童貞女、マリヤを祝福して、之に苦の状を預言し、且主に釋を請ひて呼べり、主宰よ、曩に我に示しし如く今我を釋し給へ、蓋我は爾永久の光、及びハリストスの名を負へる民の救主を見たり。

→通常部分 P13 「シメオン祝文」へ戻る

「聖三祝文」「至聖三者」「天主経」

司祭 <sup>けだし</sup> 蓋 国と権能と光荣は爾父と子と聖神<sup>°</sup> に帰す、今も何時も<sup>いつ</sup> 世世に、  
(詠) 「アミン」

(アミンに続いて)

# 祭-5

## 祭日のトロパリ 3回

▽祭日経 P857→P851

第一調。

恩寵を満ち被むる生神童貞女よ、慶べ、爾より義の日ハリストス我等の神、幽暗に在る者を照す主は輝き出でたればなり。義なる翁よ、爾も楽しみ、爾我が靈の救主、我等に復活を賜ふ者を抱きたればなり。

恩寵を満ち <sup>こうむ</sup> 被る 生神童貞女や、よろこべよ

爾より、義の日ハリストス我等のかみ くらやみに 在る者を 照らす

主は 出でて光ればなり 義なる <sup>おきな</sup> 翁 や 爾も 楽しみよ

<sup>たましい</sup> 我が靈の救主 <sup>いだ</sup> 我等に復活を賜う者を 抱きたればば なり

→通常部分P14「願わくは主の名は崇めほめられ……」へ戻る。

## 早課

六段の聖詠、大連禱に続いて

<カフィズマ、セダレンは省略>

# 祭-6

## 主は神なり、祭日トロパリ ▽祭日経 P857→P851

<【主は神なり】日本では3回だが、本来は下記の句に続いて4回。第4句に続いてトロパリ。>

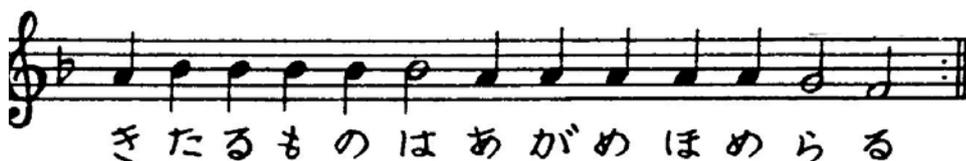
主は神なり我等を照せり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる、

(第1句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして其憐は世世にあればなり、

(第2句) 彼等我を囲み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり、

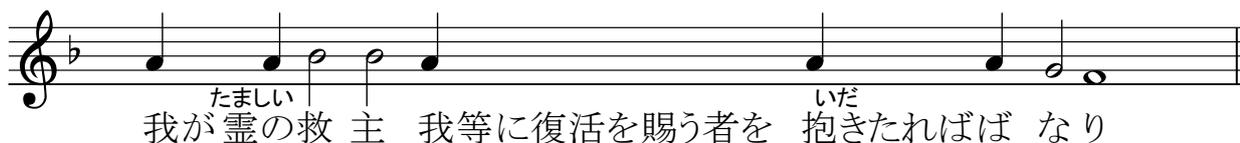
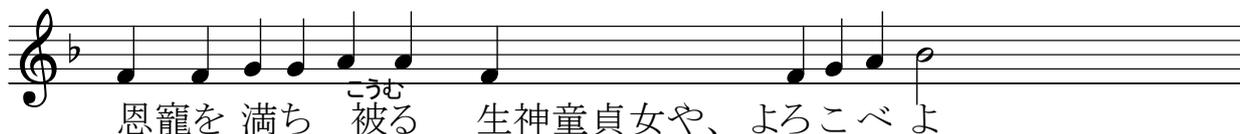
(第3句) 我死せず、猶生きて主の行ふ所を伝へん、

(第4句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす、



第一調。

恩寵を満ち被むる生神童貞女よ、慶べ、爾より義の日ハリストス我等の神、幽暗に在る者を照す主は輝き出でたればなり。義なる翁よ、爾も楽しみ、爾我が霊の救主、我等に復活を賜ふ者を抱きたればなり。



<カフィズマ省略>

→通常部分へ戻る P17【ポリエレイ】へ

<坐誦讃詞省略>

ポリエレイに続いて讃歌

# 祭-7

【讃歌】（讃歌はロシア系のみのもので祭日経には出ていない。▽[接続歌集 P342](#)

（ズナメニイのメロディによる）

讃歌 ヘノペーリによる

いのちを たまう ハリストス や、

われらなんじを さん よう して

なんじの 至浄なる 母 はは いま 律法に したがいて

なんじ 爾を 主の 殿に 捧げしものを 尊とむ

右、我が心善言を湧き出せり。

右、我曰う、我が歌は王のことなり。

左、我が舌は迅書者の筆なり。

.....

光榮、今も、

「アレルイヤ」、「アレルイヤ」、「アレルイヤ」、神よ、光榮は爾に帰す。三次。

[→通常部分P18 へ戻る](#)

【小連禱】【アンティフォン】 4 調

# 祭-8

提綱、第四調。▽祭日経 P858

我爾の名を萬世に誌さしめん。句、我が心善言を涌き出せり。



輔祭 主に祈らん

**(詠) 主、憐れめよ**

司祭 (高声) 蓋我が神や、爾は聖にして聖なる者の中に居る、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

**「アミン」**

**(詠) 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、(2回半)**

輔祭 (句) 神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ、

**(詠) 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、(2回半)**

輔祭 凡そ呼吸ある者は

**(詠) 凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ、(2回半)**

輔祭 我等に聖福音経を聴くを賜うを主・神に捧らん、

**(詠) 主憐れめよ、3次**

輔祭 睿智肅みて立て、聖福音経を聴くべし、

司祭 衆人に平安、

**(詠) 爾の神にも、**

司祭 ルカ伝の聖福音経の読み、

**(詠) 主や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す、**

福音経はルカ8端。

イエエルサレムにシメオンと名づくる人あり、斯の人義にして敬虔なり、イズライリを慰むる者を俟ち、而して聖神彼に臨めり。彼に、聖神に由りて、主のハリストスを見ざる先には、死を見ざらんと示されたり。彼神に依りて殿に来れり、父母が嬰兒イイススを攜へて、之に律法の例を行はん為に入りし時、彼は嬰兒を其手に取り、神を祝讃して曰へり、主宰よ、今爾の言に循ひて、爾の僕を釋し、安然として逝かしむ。蓋我が目は爾の救を見たり、爾が萬民の前に備へし者なり、是れ異邦人を照す光、及び爾の民イズライリの榮なり。

**(詠) 主や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に帰す、**

**50 聖詠 読む** (交替で祝福を受けに行く)

続いて

# 祭-9

## 福音後のステイヒラ

▽祭日経 P

### 第五十聖詠の後に、光榮、

今日天の門は啓かるべし、蓋始なき父の言は其神の性を離れずして、時の始を受け、四十日の嬰兒として甘じて童貞女母によりて律法の殿に攜へらる。翁は彼を手に接けて呼ぶ、主宰よ、僕を釋して逝かしめ給へ、蓋我が目は爾の救を見たり。人類を救はん為に世に來りし主よ、光榮は爾に歸す。

光榮は父と子と聖神に歸す今もいつも世世にアミン

いま天の門は啓かるべしけだし始めなき父のことはけ

その神の性をはなれずして時のはじめを

受け四十日のみどり子としてあまじて童貞女母に

よりて律法の殿にたづさえらるおきなを彼を手

にうけて呼ぶ主さいやぼくを釋してゆかしめた

ま えけだし我が目は汝の救を見たりじんるいを

救はん為に來りし主や光榮いはなんじにきす

→通常部分P20 へ戻る 【輔祭「神よ、爾の大いなる憐れみによって…」と「主憐れめよ」12回】  
(アミンに続けて)

# 祭-10 カノン ▽祭日経 P8

(規程二篇。両規程の「イルモス」各二次、其讃詞共に十二句に)

冠詞は「翁は欣ばしくハリストスを抱く」。第三調。コスマ師の作。「イルモス」二次、讃詞十二句に。

## 第一歌頌

イルモス、昔日は深處より出でたる乾ける地の上に升れり、蓋水は徒歩にて海を渡る民の為に左右に壁の如く堅く立てり。彼等神に悦ばるる歌を捧げて曰へり、主に謳はん、彼巖に光榮を顕したればなり。

むかし日は <sup>ふかみ</sup> 深處より出でたる 乾ける地の上に 昇れ - - り  
蓋 <sup>けだし</sup> 水は <sup>から</sup> 徒歩にて海を渡る民の ために 左右に壁の如く堅く立てた - り  
彼ら神に悦ばるる歌を 捧げて曰えり 彼巖かに光榮を 顕したればな - り

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

雲は水を注ぐべし、蓋日なるハリストスは軽き雲に乗るが如く不朽の手に乗せられ、嬰兒として殿に現れ給へり。故に我等信者は喜ぶへし、主に謳はん、彼巖に光榮を顕したればなり。

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

年老いて弱りたるシメオンの手は堅くなるべし、翁り衰へたる足はハリストスを迎へん為に疾く進むべし。我等無形の者と偕に詠隊を為りて、主に謳はん、彼巖に光榮を顕したればなり。

## 「光榮は」「今も」

智慧を以て張りたる天よ、楽しみ、地も喜べ、蓋神聖なる懐より出でし主、萬有の前に在る造成主ハリストスは、嬰兒として母童貞女に依りて、神父に獻ぜらる、彼巖に光榮を顕したればなり。

## 第三歌頌

イルモス、主、爾を頼む者の堅固よ、爾の尊き血にて獲たる教会を堅め給へ。



(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

世々の前に父より首めて生れし者は、不朽の童貞女より首めて生れたる嬰兒と現れて、アダムに手を伸べ給へり。

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

誘に縁りて嬰兒の如く愚蒙となりし始めて造られたる者を、原の位に回さん為に、神言は嬰兒と現れ給へり。

「光栄は」「今も」

造物主は變易なく嬰兒となりて、地より出で、復地に帰る性を神性に合ふ者と顕し給へり。

坐誦讚詞、第四調。<省略>

### 【小連禱】

輔祭 我等安和にして主に禱らん、

(詠) 主 憐れめよ

輔祭 上より降る安和と我等が<sup>たましい</sup>霊の救いの為に主に禱らん、

(詠) 主 憐れめよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・<sup>しょうしんじょ</sup>生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に<sup>ことごと</sup>悉くの我等の<sup>いのち</sup>生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋爾は我等の神なり、我等光栄は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世々に、(詠)「アミン」

### 第四歌頌

イルモス、ハリストスよ、爾の仁慈は天を覆へり、蓋爾は聖所の匱たる爾の無玷なる母より出でて、手に抱かるる嬰兒として爾の光栄の殿に現れ給へり。萬有は爾の讚美に充てられたり。

ハリストスよ 爾の仁慈は 天を蔽 えり 蓋 爾は聖所の櫃たる  
 爾の無てんなる母より 出でて 手に抱かるる嬰兒として爾の光栄の  
 殿に現れたまえり 万有はなんじの 讚美に充てられ たーり

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

生神女はびて曰へり、シメオン、言ひ難き秘密の洞察者よ、昔が聖神<sup>o</sup>に藉りて示されし嬰兒となりたる言ハリストスを喜びて手に受けて、之に籲べ、萬有は爾の讚美に充てられたり。

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

シメオンよ、年齢に因りて嬰兒たるハリストス、爾が仰ぎ望みし所の、神聖なるイズライリの慰藉律法の設立者にして、律法の規程を行ふ主宰を喜び受けて、之によべ、萬有は爾の讚美に充てられたり。

光栄は、今も、

シメオンは始なき言が肉體と偕にヘルウィムの寶座に於けるが如く童貞女の手に乗せらるるを見、萬有の存在の起原者が嬰兒と為りたるを見て、驚きて之に籲べり、萬有は爾の讚美に充てられたり。

### 第五歌頌

イルモス、イサイヤは預象に於て崇き寶座に坐して、光栄の諸天使に繞らるる神を見し時に?べり、噫我禍なる哉、我肉體を取る神、暮れざる光と平安とを司る者を預見せり。

イサイヤは預象において 崇き宝座に坐して光栄の諸天使にめぐらるる  
 かみを見し時によ べーり われ わざわいなるかな われ  
 肉体を取るかみ 暮れざる 光と平安とを 司る者を予見せり

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

神聖なる翁は母の手に乗せらるる言を見て、昔預言者に顛れし光栄を悟りて?べり、嗚呼尊き者よ、慶べ、爾は寶座の如く、暮れざる光と平安とを司る神を寄せ給ふ。

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

翁は首を伏し、敬みて婚姻を識らざる神の母の足に觸れて曰へり、浄き者よ、爾は火を載す、我嬰兒たる神、暮れざる光と平安とを司る者を抱くを畏る。

光栄は、今も

翁は神の母によべり、イサイヤはセラフィムよりやけ炭を受けて潔まれり、爾は手にて鉗の如く、我に爾が載する所の暮れざる光と平安とを司るものを與へて、我を照し給ふ。

#### 第六歌頌

イルモス、翁は神より諸民に來りし救を親しく見て、爾に籲べり、ハリストスよ、爾は我の神なり。

翁は神より來たりし 救いを親しく見て 爾に よべーり  
ハリストスよ なんじは われの かーみ なーり

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

爾信者の敗られぬ救は石として置かれたり、順はざる者の為には蹟と誘との石なり。

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

爾は世より前に爾を生みし者の正しき像にして、今仁慈に依りて地上の者の弱きを衣給へり。

光栄は、今も

爾至上者の子、童貞女の子、嬰兒と為りし神に伏拝せし者を今安然として逝かしめ給へ。

#### 【小連禱】

輔祭 我等安和にして主に禱らん、

(詠) 主 憐れめよ

輔祭 上より降る安和と我等が<sup>たましい</sup>靈の救いの為に主に禱らん、

(詠) 主 憐れめよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・<sup>しょうしんじょ</sup>生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に<sup>ことごと</sup>悉くの我等の<sup>いのち</sup>生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主 爾に

司祭 (高声) 蓋爾は平安の王及び我が靈の救主なり、我等光栄は爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

#### 小讚詞、第一調。

ハリストス神よ、爾は己の降誕にて童貞女の腹を聖にし、宜しきに合ひてシメオンの手に福を降し、今我等の為に救を備へ給へり。獨人を愛しむ主よ、我が國を戦の時に平和にし、爾の愛する皇帝を固め給

へ。

#### 同讃詞

我等生神女に趨り附きて、謹みてシメオンに攜へらるる其子を見ん。無形の者は天より彼を見て、驚きて曰へり、我等今奇妙至榮なる測り難く言ひ難き事を見る、蓋アダムを造りし者は嬰兒として攜へられ、容れられぬ者は翁の手に容れられ、己の父の限なき懐に在す者は、神性を易へずして、甘じて身を以て限らる、獨人を愛しむ主なればなり。

#### 第七歌頌

イルモス、爾、火に在りて神を傳へし少者に露を注ぎ、又不朽の童貞女に入りし神言を、我等讚美して、敬みて歌ふ、我が先祖の神は崇め讃めらる。



また 童貞女に入りし 不朽の かみ ことばを 我等讚美して  
敬しみてう たー う 我が先祖のかみは あがめ 讃めらーる。

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

我逝きて地獄に在るアダムに傳へ、エワに福音を報れんとシメオンは?びて、諸預言者と偕に歌へり、我が先祖の神は崇め讃めらる。

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

地上の族を救はん為に、神は地獄にまで降り、悉くの虜に釋を、瞽者に見るを、亦啞者に我が先祖の神は崇め讃めらるとよぶを賜はん。

#### 光榮は、今も

シメオンは生神女に預言して曰へり、不朽の者よ、爾の心も劍にて刺されん、是れ爾が己の子を十字架に見ん時なり。我等彼に籲ぶ、我が先祖の神は崇め讃めらる。

#### 第八歌頌

イルモス、敬虔の範たる少者は堪へ難き火に入れられしに、焰に悩まされずして、神聖なる歌を歌へり、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

敬虔けいけんののり範のりたる少者しょうしゃは堪え難がたき火かにいれられしに

ほのほに 悩なやまされずして 神聖しんせいなる歌うたを 歌うたえり

主しゅのことごとくの造つく物ぶつは 主しゅを あがめて

世よ世よに 讃ほめ - - あ - げ よ

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

イズライリの民よ、童貞女の子、爾の光榮たるエンマヌイルを見て、今神聖なる櫃の面の前に歌へ、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

(冠詞) 翁は欣ばしくハリストスを抱く。

シメオンよべり、視よ、此の神及び嬰兒は駁論の號と為らん。我等信者は彼に歌はん、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよ。

光榮は、今も

此の神言、生命たる者は嬰兒と為りて、順はざる者の為には類、亦凡そ信を以て、主の悉くの造物は主を崇めて、萬世に讃め揚げよと歌ふ者の為には興と為らん。

第九歌頌

附唱) 生神童貞女「ハリストティアニン」等の倚恃よ、爾を恃む者を覆ひ、護り、救ひ給へ。

イルモス、我等信者は影及び文なる律法に於て預象を見ん、凡そ始めて生るる男子は神に獻げられたり。故に我等は無原の父より始めて生れし言、夫なき母より始めて生れし子を崇め讃む。

生 神童貞女 ハリストティアニン等の たのみ よ 爾を頼 者を

覆いまもり すくいた ま - - え

われ等 信者は かげ および 文なる 律法において 預象を見ん  
 およそ 始めて 生まるる 男子は 神に捧げられ た - り  
 ゆえに われ等は 無限の ちちより はじめて 生まれし ことば  
 おとなき 母より はじめて 生まれし子を あがめ 讃む

附唱) 生神童貞女、世界の慈憐なる扶助者よ、凡の危難憂愁より覆ひて、護り給へ。  
 古には新に生れし者と偕に雙の斑鳩と二の雛鳩とは獻げられたり、之に代へて、神聖なる翁と貞潔なる  
 預言女アンナとは、童貞女より生れし者、父の獨生の子、殿に獻げられたる者に務めて、之を崇め讃む。

附唱) 捧神者シメオンよ、来りて、潔き童貞女マリヤの生みしハリストスを捧げよ。  
 シメオンはよべり、ハリストスよ、爾我に爾の救の喜を賜へり、求む、影に疲れたる爾の役者、今恩寵  
 を仰ぎ観て、敬みと之を傳へ、爾を讃め揚ぐる者を納れ給へ。

附唱) 嗚呼童貞女マリヤよ、世俗の逸樂にて甚しく味まされたる我が靈を照し給へ。  
 貞潔にして義なる老婦アンナ預言女は殿に於て敬みて明に主宰を承け認め、之を衆人の前に傳へて、生  
 神女を讃め揚げたり。

### 【小連禱】

- 輔祭 我等安和にして主に禱らん、 (詠) 主 憐れめよ  
 輔祭 上より降る安和と我等が<sup>たましい</sup>靈の救いの為に主に禱らん、 (詠) 主 憐れめよ  
 輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・<sup>しょうしんじょ</sup>生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記  
 憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に<sup>ことごと</sup>悉くの我等の<sup>いのち</sup>生命を以て、ハリストス神に委  
 託せん、 (詠) 主 爾に  
 司祭 (高声) 蓋天の衆軍爾を讃揚す、我等も光榮は爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世に、  
 (詠) 「アミン」

※日曜日の場合には「主は神なり」を歌う。

### 光耀歌

今日果を結ばざるアンナより華たる生神女、地の四極に神聖なる馨香を充て、一切の造物に歡喜を満つ

る者は生じたり。我等彼を歌ひて、地に生るる者より至りて秀でたる者として宜しきに合ひて讃め揚ぐ。

(二次)

光榮、今も、

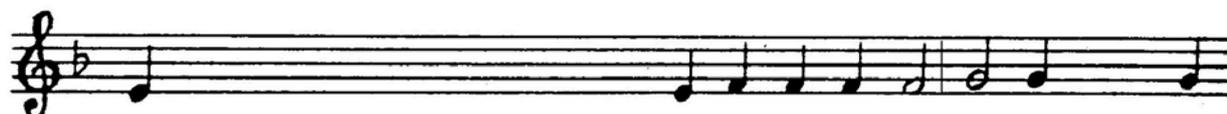
アダムよ、新になれ、エワよ、振ひ興れ、諸預言者よ、使徒及び義人等と偕に宿へ、蓋今日義なるイオアキムとアンナより諸天使及び人々の一般の歡喜たる生神女マリヤは輝き出でたり。

# 祭 11

【讃揚歌とスティヒラ】 ▽祭日経 P8

「凡そ呼吸ある者」に四句を立てて讃頌を歌ふ。第4調。

4調で「凡そ呼吸ある者」を歌う。(本来 148,149,150 聖詠誦読し、末尾にスティヒラを挿入するが、通常省略され) 生神女讃詞を歌う。



およそいきあるものは主をほめあげよ天より主を



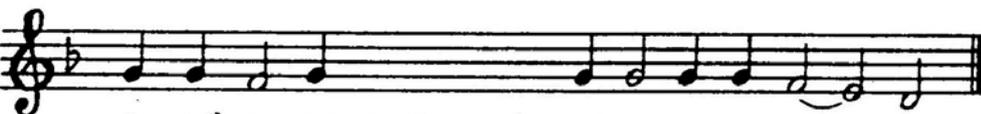
ほめあげよいとたかきにかれをほめあげよ



ほめ歌は汝かみに帰すそのことごとくの神使や



かれをほめあげよそのことごとくの軍やかれをほめ



あげよほめ歌はなんじかみに帰す

<スティヒラ省略>

光榮、今も、第六調。(ゲルマンの作)。

ヘルウィムの輅に乗るが如く、今日甘じて翁の手に坐し給ひしハリストス神よ、我等爾を歌ひて呼ぶ者を諸慾の苛虚より脱して救ひ給へ、人を愛しむ主なればなり。

光栄は父と子と聖神に帰す今もいつも世 世 にアミン

ヘルヴァムコンニテのくるまにのるがごとく今日あまんで

翁オキナの手に坐カしたまいしハ分ストかみや我等汝を歌ウタいて呼ヨ

ぶ者を諸欲カレの苦しめよりのがしてすくいたま え

人をいつくしむ主なればなり

→通常部分 P22 に戻る 【大詠頌】を歌う

大頌栄、「聖なる神」を歌った後

## 祭 12 【祭日トロパリ】 第4調 P

第一調。

恩寵を満ち被むる生神童貞女よ、慶べ、爾より義の日ハリストス我等の神、幽暗に在る者を照す主は輝き出でたればなり。義なる翁よ、爾も楽しみ、爾我が霊の救主、我等に復活を賜ふ者を抱きたればなり。

恩寵を満ち 被る 生神童貞女や、よろこべよ  
 爾より、義の日ハリストス我等のかみ くらやみに 在る者を 照らす  
 主は 出でて光ればなり 義なる 翁 や 爾も 楽しめよ  
 我が霊の救主 我等に復活を賜う者を 抱きたればば なり

→通常部分 P27 に戻る

【重連祷、増連祷】 早課の終わり。発放詞。

## 時課

<時課の変更箇所は、トロパリコンダクのみ>

讃詞 第一調。

恩寵を満ち被むる生神童貞女よ、慶べ、爾より義の日ハリストス我等の神、幽暗に在る者を照す主は輝き出でたればなり。義なる翁よ、爾も楽しめ、爾我が霊の救主、我等に復活を賜ふ者を抱きたればなり。

小讃詞、第一調。

ハリストス神よ、爾は己の降誕にて童貞女の腹を聖にし、宜しきに合ひてシメオンの手に福を降し、今我等の為に救を備へ給へり。獨人を愛しむ主よ、我が國を戦の時に平和にし、爾の愛する皇帝を固め給へ。